

森孝の子どもたちがいきもいきと 輝き続けるために

本地丘小学校・森孝東小学校・森孝西小学校の統合
及び森孝中学校との併設(案)について



令和7年6月4日、7日、8日に森孝中ブロックの児童生徒と未就学児の保護者の方を対象とした、統合案に関する意見交換会を開催し、様々なご意見等をいただきました。

意見交換会でいただいたご意見等を踏まえ、森孝中ブロックでの望ましい学校規模の確保の取り組みに対する教育委員会としての考え方を改めて整理させていただきました。

なお、正式に統合が決定しているわけではありませんので、あらかじめご承知ください。

名古屋市教育委員会 教育環境整備課
令和7年10月

① なぜ3小学校を統合するの？

本地丘小・森孝東小・森孝西小はいずれも小規模校であり、右表のとおり今後さらに児童数が減っていく見込みです。
※児童数は、本地丘小は市内小学校の中で最も少なく、森孝東小も11番目に少ない状況です。(R7.5月時点)

	令和7年度		令和10年度		令和13年度	
	本地丘小	54人	6学級	32人	6学級	19人
森孝東小	130人	6学級	137人	6学級	111人	6学級
森孝西小	207人	9学級	178人	7学級	142人	6学級
森孝中	220人	7学級	196人	6学級	181人	6学級

小規模校の方が職員の目が届きやすいのであれば、小規模校の方がよいのでは？

本地丘小と森孝東小の2校を統合すれば済むのでは？

1クラスの人数の上限は小規模校も統合校も変わりませんので、適正規模の学校でも教職員の目が届かないことはないと考えています。一方、小規模校ではクラス替えができないことで人間関係が固定化してしまうことになり、多くの人や様々な考えと出会える機会が限られてしまうなどのデメリットがあります。

本地丘小と森孝東小だけを統合しても小規模校のままとなってしまいます。そのため、森孝西小を含め3校の統合が必要であると考えています。

3小学校の統合することで、望ましい学校規模を確保することを検討しています。

② どこの場所で3小学校を統合するのがいいの？

本市の通学距離の基準として、小学校では2km以内としており、森孝中の場所以外を3小学校の統合場所とした場合、いずれかの学区の子どもにとって2kmを超える子どもが出てきてしまいます。

学区の概ね中央に位置し、全ての学区の子どもにとって2km以内となる森孝中の場所を3小学校の統合場所にしたいと考えています。

森孝東小の場所の方がよいのでは？



森孝東小の場所を統合場所とする場合は、森孝西学区から2kmを超える地域があるため、妥当ではないと考えています。また、長年、地域活動を行っている地域の一部が変わる学区の分割や、区を跨いだ統合も、課題が多いと考えています。

それぞれの距離は、想定した通学路を歩いた場合の距離です。

本地荘から
森孝中まで1.8km
本地丘小まで0.4km
森孝西小まで2.2km
森孝東小まで1.4km
本地丘小まで2.6km

白山二丁目から
森孝中まで1.8km
森孝東小まで1.3km
本地丘小まで1.0km
森孝西小まで2.8km

森孝西小

森孝東小

森孝中

四軒家住宅から
森孝中まで0.9km
森孝東小まで0.2km
本地丘小まで1.6km
森孝西小まで1.9km

森孝東二丁目から
森孝中まで1.8km
森孝東小まで1.1km
本地丘小まで1.2km
森孝西小まで2.8km

③ 森孝中の場所で小学校を統合するなら、森孝中はどうなるの？

中学校の教育活動において、教室での授業や通常の学校運営を行うには、森孝中の場所以外でも、森孝中の場所での小中併設でも、どちらでも大きな差はないと考えています。

ただ、体育の授業や体育祭、部活動などを現在と同様に行うためには、運動場をできるだけ広く確保することが望ましいと考えています。

4つの学校が森孝中の場所でひとつになるのは、敷地が狭いのでは？



小学校は森孝中の場所で統合し、森孝中は森孝東小の場所へ移ればよいのでは？

小中学校の併設校は森孝中の敷地だけで教育活動が可能であると考えています。地域の方や学校現場等から運動場の広さについて心配の声をいただいたため、中学校部活動を中心として、より充実した活動ができるよう、森孝東小の運動場をサブグラウンドとして活用する計画案としました。



中学校の教育活動では、運動場のトラック、競技種目のコート、格技施設など、小学校と比べ多くの面積を必要とします。森孝東小の場所ではそれらの面積を十分確保できないと考えています。

森孝中の敷地が最も広く、運動場面積を広く確保できるため、現在の場所が最も適していると考えています。そのため、小中併設の利点も踏まえ、森孝中の場所で、小中併設型の学校を開校したいと考えています。

④ 小中併設になると、どんな課題や利点があるの？(笹島小中学校の事例から)

課題

- 体格が大きく違う小学校低学年と中学生が同じ校舎で生活することによる、子どもたちの移動時の安全面への不安。
- 小学校低学年の放課時の声が中学生に影響を与えるのか。
- 小学校と中学校では授業時間が違うため、児童生徒へはどうやって始業と終業を知らせるのか。
- 小学生と中学生が共用する運動場や体育館、特別教室などの授業はこれまで通りできるのか。
- 小学6年生にとって小学校の最高学年としての意識をどのように持たせるか。

利点

- 中学生が小学生を手伝ったり、優しく声掛けする姿が見られる。小学生にとって中学生に対して憧れを抱く育ちが期待できる。
- 小中学校の職員室が同じ敷地内にあることで、日常的に情報交換ができる、中学進学の際の変化について円滑な接続を確保できる。
- 小中学校での合同行事が盛んに行われる。
- 小学校高学年の授業では中学校の教員が専門性を活かして授業を担当することができる。
- 教職員の数を一定程度確保できるので、多くの大人の目で見取ることができる。

課題に対しては、どう対応するの？

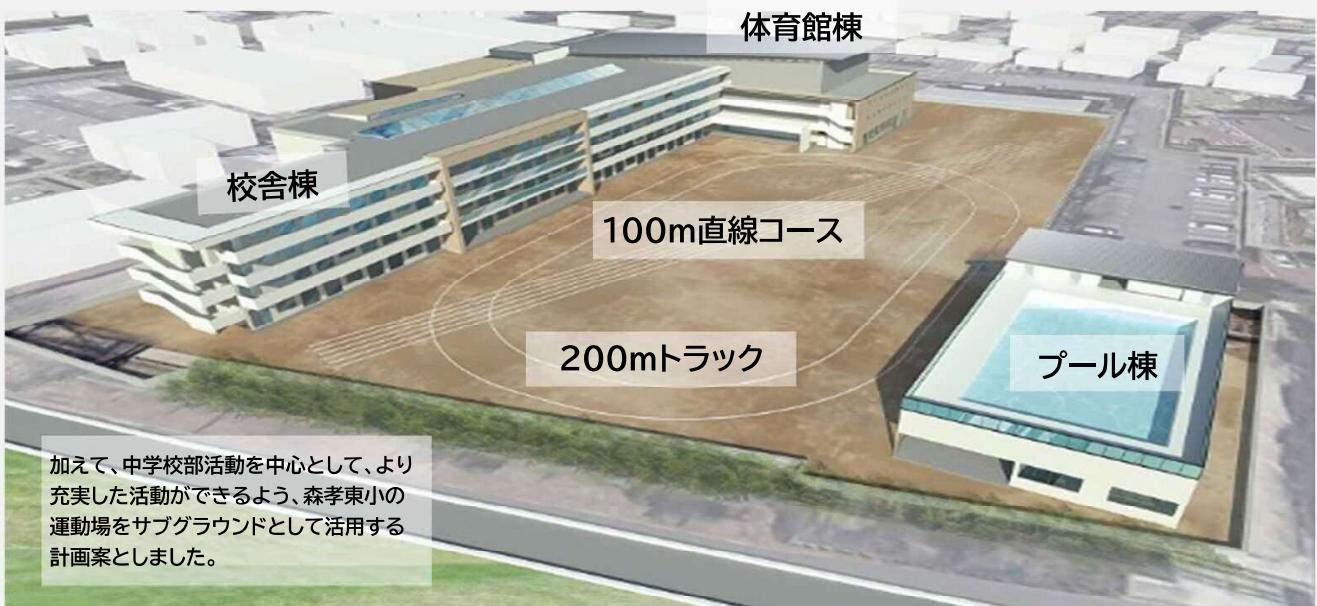


笹島小中学校の運営などを参考にしながら対応を検討します。例えば、
○教室等を階層別に低層階(1・2階)は小学生、高層階(3・4階)は中学生が主に使用する教室を配置する、昇降口を別々にするなど、日常生活での接触や声が響くのを軽減するよう検討する。
○学校チャイムは小学校で使用し、中学校はチャイムを使わず学校生活をするよう検討する。
○時間割の工夫や行事日程の調整、放課時間の施設使用のルールを設けるなど、小学校と中学校が調整を行なながら、子どもたちができるだけ快適に過ごせるよう検討する。



森孝中の場所で3小学校を統合し、森孝中との併設とするため、その課題に対応しながら、併設の利点を活かし、森孝中ブロックの全ての子どもたちにとって、より良い学校となるよう検討していきます。

⑤ 新しい学校のイメージは？



【校舎棟】

- ・小・中用教室(特別支援学級含む)
- ・図書室、音楽室、理科室、家庭科室、図工室、美術室、技術室
- ・調理場、ランチルーム、多目的室 など

【体育館棟】

- ・体育館
- ・第2体育館(兼格技場)
- ・重層化し面積を確保
- ・トワイライトスクール

【プール棟】

- ・屋上プール
- ・会議室(地域利用も含め)
- ・器具庫
- など

※イメージ図であり、実際の設計・建築の際には配置などは大幅に変わることがあります。

⑥ 通学の安全はどう考えているの？

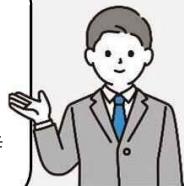
通学路はどこを想定しているの？
大きな道路もあって心配です。

熱中症への対策はどう考えているの？



統合の前年度までに、保護者や地域の方々とともに、地域の特性を踏まえながら、市外の一部を通学路にするなど具体的な通学路の設定とその安全対策について検討します。また、通学練習会を実施する等、交通安全指導にも取り組んでいきます。通学路上の安全対策については、警察・土木事務所など関係機関との連携を行っていきます。

これまでの統合校では、次のような対応をしています。
○日傘、首を冷やすグッズ、スポーツドリンクの携帯を認める。
○下校時、水筒の中身が無くなっている場合には水分の補給を徹底。
○通学支援員を配置し、通学に慣れるまでの一定期間、一番遠い分団の子どもたちと一緒に登校。
さらに、統合によって通学距離が長くなる子どももいることを踏まえ、登下校時の避暑スポットを確保するなど、さらなる対策も検討したいと考えています。



⑦ 今後のスケジュールは？

令和7年度

令和8・9年度

令和10～13年度

令和14年度～

本地丘小学校
の場所

本地丘小学校

森孝西小学校
の場所

森孝西小学校

森孝東小学校
の場所

森孝東小学校

森孝中学校
の場所

森孝中学校

統合校 東校舎

※森孝東小と本地丘小の児童

R10 統合校開校

※東校舎と西校舎に分れて

統合校 西校舎

※森孝西小の児童

改工
修事

R11～
森孝中 仮校舎

R10:改修工事(中学校仕様)

R11:森孝中が移転

新校舎へ
引っ越し

森孝東小運動場を
森孝中サブグラウンド
として利用開始

小中併設型の
学校の開校

※統合がスムーズに進んだ場合を想定したスケジュールになっていますので、調整状況によって変わってきます。

森孝中の仮校舎は、なぜ森孝東小なの？
本地丘小を森孝中の仮校舎として、森孝東小を統合校東校舎にする方がよいのでは？

主に以下の点を踏まえ、森孝東小とする方がよりよいと考えています。
○小学校は、どちらの小学校でも、現状の教育活動を支障なく行える。
○中学校は、体育の授業や部活動を行うことを想定した場合、本地丘小は森孝東小より運動場が狭いため、比較して教育活動への支障がより大きくなる。
○本地丘小の自然林は、中学校よりも小学校の方が有効に活用できる。

統合決定するまでの間に、今後どのようなタイミングで意見を吸い上げてもらえるの？

現在は、統合プラン作成のため、保護者や地域の皆様から、ご意見等をいただいている状況です。
そのご意見等は、外部有識者で構成する審議会にもお伝えし、統合プランを審議をしていただきます。
また、審議会から答申を受けた後に開催する保護者・地域の方への説明会においても、ご意見等をお伺いします。

統合すると学区単位での地域活動も統合されるの？
また、学校跡地はどうなるの？

これまでの統合事例では、地域活動は従前と変わりなく同じ単位で活動をしていただいている。
また、学校跡地の活用方法は、今後、名古屋市全体で検討することになりますが、これまでの統合事例では、避難所や地域活動の拠点は確保されています。



名古屋市教育委員会事務局教育環境整備課

電話:052-972-3282 FAX:052-972-4176

E-MAIL:a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

※これまでの取り組みや配布資料については、下記のURLかQRコードからご覧いただけます。

<https://www.city.nagoya.jp/kurcategory/11-10-5-5-4-5-0-0-0-0.html>





意見交換会の開催結果について



令和7年10月14日、18日、19日に本地丘小・森孝東小・森孝西小及び森孝中の保護者の方、未就学児の保護者の方及び地域の方を対象とした「本地丘小学校・森孝東小学校・森孝西小学校の統合及び森孝中学校との併設(案)に関する意見交換会」を開催し、延べ101名の方にご参加をいただきました。

意見交換会でいただいたご意見等のうち、意見交換会説明資料で触れられていないことに対する教育委員会の考え方をまとめました。より詳しい内容は市公式ウェブサイトをご覧ください。なお、ご意見等について、内容をまとめさせていただき作成しています。

本地丘小・森孝東小・森孝西小における取り組みのウェブサイト

(意見交換会説明資料や、ご意見に対する考え方の詳細を掲載しています。)

<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/11-10-5-5-4-5-0-0-0-0.html>

右の二次元コード、または市公式ウェブサイトのサイト内検索で



※下記①～⑦の項目は、意見交換会説明資料の項目と関連付けていますので、説明資料と併せてご覧ください。

① なぜ3小学校を統合するの？について

学校づくりだけを先行するのではなく、人口が増えるようなまちづくりの展望を併せて教えてください。
本地丘学区は、市営住宅がほとんどを占める地域ですが、住宅政策をしてほしいなどの働きかけは行われたのでしょうか。

まちづくりについては、現時点での地域に関する個別の具体的な計画はありませんが、関係部署とは情報提供をしながら進めています。また、現時点での本地丘の更新等の具体的な計画ではなく検討段階であると聞いています。併せて、市営住宅の更新等に学校の有無は影響しないものと聞いています。教育委員会としても、関係部署に対し、市営住宅を更新していただくよう要望しているところです。

6～15年後の推計について具体的に教えてください。また、高齢者の方と子育て世代との入れ替わりも含めて推計されているのでしょうか。



○森孝中ブロックの将来推計

	R7	R10	R13	R14	R16	R19	R22
本地丘小	82人	52人	33人	34人	36人	37人	38人
森孝東小	158人	152人	149人	149人	149人	154人	158人
森孝西小	211人	200人	196人	200人	208人	215人	220人
3校計	451人	404人	378人	383人	393人	406人	416人

※児童数はR2年の国勢調査の結果を基にしているため、R13までの推計値との誤差があります。

中長期的な将来推計としては、令和2年度の国勢調査の結果を基に、生存率、出生率、移動率等を加味して、将来児童数を計算しています。推計上、6～15年後の児童数はほぼ横ばいの傾向であり、3小学校とも依然として適正規模にはならず小規模化の傾向が継続していることを踏まえて、統合の対象校であると考えています。



② どこの場所で3小学校を統合するのがいいの？について

通学距離の目安の2kmについての根拠が全く示されていません。それが決められた頃と比べ、日本の気象がだけ変わったのかについて、どのくらい考慮されたのですか。



国では、学校を適正規模にするための統合における通学距離の基準として、概ね小学校が4km、中学校が6kmと規定されていますが、本市では概ね小学校が2km、中学校が3kmを目安としています。市全体でも同様に2km近く又は2kmを超えて歩いている子どもがいる学校もあります。しかし当然ながら、統合前と比べると通学距離が伸びることもあり、また、昨今の気象状況によって猛暑日を記録する日が増えている中、安心して通学していただけるよう、他校で行っている対策や他都市の状況等も参考にしながら検討していきます。



③ 森孝中の場所で小学校を統合するなら、森孝中はどうなるの？について

森孝中の場所で3小学校と中学校と一緒にした場合には、運動場の国基準面積等は満たしているとの回答だったにもかかわらず、中学校だけを森孝東小の場所で運営するには、森孝東小の場所が狭いとの説明なのは、なぜですか。

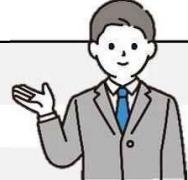
中学校の教育活動において、体育の授業や体育祭等をできるだけ現在と同様に行うためには、運動場の200mトラックや100mコースの確保、格技施設などの確保が必要であると考えています。イメージ図にありますように森孝中の敷地では確保が可能ですが、森孝東小の敷地では、200mトラックや100mコースの確保が難しいことに加え、格技施設などを新たに必要とするため、十分な面積を確保できないと考えています。

④ 小中併設になると、どんな課題や利点があるの？について



小学校では給食の時間などに音楽を流していて、そのような活動が小学校らしいと思います。中学生と一緒にになった場合に、音楽がうるさいとか、小学生が静かに過ごすような指導となっていくことがないように、分け方を考えもらいたいです。

笠島小中学校をはじめ小中学校が同じ敷地内で生活している例も研究させていただき、子どもたちの楽しみがなくなるないよう検討します。



⑤ 新しい学校のイメージは？について

イメージ図を見ると、遊具がありません。観察池もないで、虫の観察をはじめとした生活科の授業を行う場所が見当たらず、小学生が通いたいと思わない無機質な学校に見えます。小学校らしさと中学校らしさをもう少し描いていただけるとよいと思います。

実際には、小学校低学年の授業の内容として、ぶら下がる運動、体を支える運動、体を回転させる運動などがありますので、必要な遊具は配置していきます。イメージ図への反映については、ご意見として承ります。観察池は必ず設置するべきものではないので、学校と相談して検討していくものとなります。また、教材園は小学校低学年の生活科や高学年の理科などで使うために必要なものなので、この敷地の中に配置していく予定です。

⑥ 通学の安全はどう考えているの？について



現在登下校で使用している森孝中学校の北側通用門の周辺は、歩道も狭く歩行者や自転車の通行量も多いので、危険だと思います。

通学路は、最終的に学校が決めるのですが、例えば、香流川沿いの緑陰歩道を利用し、南門から登下校することも含め、道路・交通の状況や周辺環境なども踏まえて、子どもたちが安全に通学できるような通学路を検討していきたいと考えています。



⑦ 今後のスケジュールは？について

工事期間中、森孝中の生徒だけでなく、本地丘小と森孝東小の児童も森孝東小の場所で一緒に生活するのは、規模的に難しいのでしょうか。

森孝中は現在9クラス、小学校は森孝東と本地丘を合わせて通常学級で7クラスとなり、今の森孝東小の校舎で小学校と中学校を収めることができません。仮に運動場に仮設校舎を作つて、そこで生活する場合は、運動場の確保がさらに困難になります。

○ その他について

小中併設になると500人分近い給食が必要となると思いますが、小学校と中学校の昼食はどういう予定を考えていますか。

小学校は、現在と同じように自校調理での給食の提供を予定しています。そのため必要な設備を設置し、調理員も配置していきます。中学校は、現状はスクールランチを提供していますが、中学校の給食化については、統合決定後に、保護者の皆様や関連する方々にアンケート等によりご意見をいただきながら検討したいと考えています。

学校規模を大きくすることによって先生の業務がさらに忙しくなるのではないかでしょうか。

子どもの人数に関わらず、学校が担う仕事量としては変わりません。教員数が少ない学校では、一人で複数の仕事を兼ねて行う必要があります。そのため、教員一人当たりの負担は、適正規模の学校と比較すると、小規模校の方が大きい面があると考えています。一定の学校規模があり、一定数の教員がいれば、皆で協力・分担しながら学校運営を進めることができるため、子どもたちと向き合う時間を確保することに繋がっていくと考えています。

行政区や市政を越えた形での教育、通学区域の検討はできないでしょうか。

小中学校の児童生徒を合わせると500人程度の規模になると想定しており、統合後も望ましい学校規模を維持できると考えています。そのため、今回の統合では近隣の行政区をまたぐような統合の検討は必要ないと考えています。なお、市町村ごとの考え方に基づき、運営予算や校舎整備、教職員の配置等が行われていることもあり、現時点で市外の学校との連携は想定していません。



統合(案)などについて、ご意見等ありましたら、下記までご連絡ください。

名古屋市教育委員会事務局教育環境整備課

電話:052-972-3282 FAX:052-972-4176 E-MAIL:a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp